

第2回 里山広葉樹プラットフォーム 設立準備協議会 開催概要

里山広葉樹の利活用と再生に向け、川上から川下までの広葉樹に関わる多様な主体が参画し、情報共有と課題解決、価値発信等を行うプラットフォーム「一般社団法人 里山広葉樹利活用・再生機構（仮称、通称:SATOC0）」の設立を目指し、発起人による設立準備協議会にて、団体サービスの内容や規約等について、議論が行われた。

以下に、第2回設立準備協議会の開催概要を記載する。

開催日時：令和8年9月30日（水）16:00～18:00

開催方法：対面及びオンライン（Teams）併用

参加者：発起人企業・団体18者、林野庁里山広葉樹利活用推進チーム（長崎屋長官、木下国有林野部長、鈴木チーム長ほか）

ポイント

- ・ 会議次第・資料（別掲）に沿い、事務局（林野庁広葉樹チーム）からの報告事項として、各ワーキンググループ（WG）から3点（WGの目的、検討内容、今後のスケジュール）の説明を行ったのち、意見交換を行った。
- ・ 報告事項に対しては、「データベースの情報更新にはルール化が必要」「川下と川中のマッチングを検討してほしい」等の意見があった。
- ・ 続いて、プラットフォームの骨格・会員サービス等について議論が行われた。今後の当面の予定（10月～12月）として、SNSでの情報発信等を行うほか、各WGでプラットフォームの事業計画の具体化等を進め、12月中に第3回設立準備協議会を開催することとなった。

概要

○ 長官挨拶

- ・ 社業の傍ら本協議会に参画いただき感謝。本日は、広報普及啓発WG、情報共有・サプライチェーンWG、調査研究WGそれぞれの検討状況を共有させていただき、需給情報の共有等を行うプラットフォームの骨子など、検討していただく内容が多いが、慎重かつ活発な議論をお願いしたい。

○ 発起人からの発言（順不同）

（1）ユキグニファクトリー株式会社

- ・ 情報共有・サプライチェーンWGの取組内容は良いが、データ入力後に更新されず不要となった情報が残ることが多いため、常に最新の情報になるよう更新日付の表示や、2年間更新がなければ削除するといった運用を検討した方がよい。

（2）株式会社イトーキ

- ・ 各WGの取組はウェブサイトへ掲載されていくのか。

(3) カリモク家具株式会社

- ・ 川下から地域材を探す際、川上は見つかったとしても、それを製材してくれる川中が見つけにくいいため、川中とのマッチングも考慮してほしい。

(4) ノースジャパン素材流通協同組合

- ・ 業界の課題は、川上が川中・川下の需要を知らない状況であり、これをマッチングすることが団体の意義であるとする。そのため、川上・川中が入りやすくすることやセミナー等は全国一律ではなくエリアごとに実施すべき。
- ・ また、国有林の広葉樹供給は、どのような方向性なのか。林業事業者の広葉樹の理解が進んでおらず、広葉樹が製紙規格に合わない山に捨てられており、情報が川上に伝わっていないことが問題の本質である。

(5) 森産業株式会社

- ・ きのこ用の原木・おが粉（ブナ・コナラ・クヌギ）の入手が困難で、東北はナラ枯れ、原発の影響で阿武隈川水系が使えない状況があるとの相談をよく受ける。
- ・ 川上は付加価値を付けたい、川中はより高く売りたい、一方で川下（きのこ）は安い原料を求めるなど判断基準が一致せず、マッチングがうまくいかないと川下が困るため、問題解決に向けた施策を検討すべき。

(6) 物林株式会社

- ・ 発信するだけでなく、需要者が欲しいものを供給側と一緒に作るプログラムが欲しい。特に、広葉樹は樹種も多く、径もバラバラであることから、従来の川下起点の需要対応に加え、山側が企画して投げ込む「一緒に作る」プログラムが有効であり、川上の技術提供や川下への需要伝達の一段上の取組になる。

○ 国有林野部長による総括

- ・ 活発な審議をいただき感謝する。プラットフォームの情報をつなぎ合わせて新しいビジネスを生み出すことが重要。事業者にメリットを感じてもらうことが大切であり、参加者が増えることで具体のビジネスにつながる。
- ・ 引き続き設立に向けたご協力をお願いする。